

おはようございます。みなさん、元気ですか！？元気があれば、芸術鑑賞ができる。

今日は芸術鑑賞ということで、伝統芸能オフィスの皆様にお越しいただき、「落語」と「色物（大神楽曲芸）」を鑑賞させていただきます。

まず、「落語」というものを知っていますか。テレビで見たことがある人もいるかもしれません。

落語とは、「面白いお話で、お客さんを笑わせてくれるもの」です。1人で座って、登場人物の会話によってお話を進めます。これが特徴です。みなさんに、一番学んでほしいのは、お話の伝え方です。落語でお話をしてくださる人は、ただの声だけではなく、声の大きさ、大きかったり小さかったり、声の速さ、声の種類、そして、表情や目線、姿勢や動きなどで、登場人物の会話を伝えてくださり笑わせてくださいます。

次に、「色物（大神楽曲芸）」は、どうですか。大竹祭りで神楽を見た人も多いかと思いますが、神楽と神楽の間に見ている人を、楽しませてくれる曲芸だそうです。初めて見る人も多いかもしれません。色物（大神楽曲芸）については、まず、「なんでそんなことが簡単にできるの？」っていうすごい技に注目してほしいと思います。でも、実は、技がすごいだけではないのです。つつい、見てしまう、もっと見たくなってしまう、そんな楽しませ方や見せ方、そして人の心を引き付ける秘密を見つけてほしいと思います。

今日は、落語も色物も、そんなプロの本物の技に注目して、笑うときは笑う、しっかり聴くところは聴くというようにメリハリ、けじめをつけて楽しんでほしいと思います。

では、伝統芸能オフィスの皆様、どうぞよろしく願いいたします。

令和6年11月12日（火） 芸術鑑賞を終えて 校長の感想



林家染八さんからは、まず、実際に演じていただきながら、小学生に分かりやすく落語の解説をしていただきました。また、落語の体験ということで、代表の6年生3名がステージ上で染八さんのご指導のもと、全校の子供たちを前に短い落語を演じました。その後、実際に落語を一題見せていただきました。

ました。

落語でお話を聴いて、登場人物の感情や気持ちがとてもよく伝わってくるなあと思いました。そのわけは、直接、顔を見て、声の大きさや速さ、強弱、表情や目線、姿勢や動作などを工夫して表現されているためだと考えます。メールなどの文字のみによる表現では伝わりにくい、人の感情や気持ちが、対面でこんなに伝わるものかと、プロの技能に感銘を受けました。

ラッキー舞さんからは、色物（大神楽曲芸）を見せていただきました。

何種類もの芸を見せていただきました。子供たちも代表者6名が体験させていただきました。芸が高度になるたびに、子供たちは盛り上がり、最高難度の芸になると、これまで学校で聞いたこともないような応援の声や大歓声が起こりました。当然、



見ている者は芸に注目しますが、ラッキー舞さんの「楽しんでもらいたい」「感動してもらいたい」「笑顔になってもらいたい」という強い気持ちとセットになっている魂の入ったすごい芸であるために、見ている人がこんなに夢中になるのだと思いました。

お二人ともプロフェッショナルです。今日の芸を見せていただくと、一言で「すごい！」と行ってしまいますが、誰も見ていないところで、落語や色物の勉強や練習を厳しく繰り返されているはずです。